

(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立寺領小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	寺領の食探検隊	学校葡萄園 奥出雲葡萄園 日登牧場 木次乳業 地域の方
ねらい		ぶどう栽培の体験や、地域の食のプロフェッショナルの方の話を聞いたり、見学をしたりする活動を通して、ふるさとの食に興味をもち、ふるさとに愛着をもてるようにする。	
<p>1 取組の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校のぶどうの栽培をする。 2) 奥出雲葡萄園、日登牧場、木次乳業の見学をする。 3) 収穫したぶどうをどうするか計画を立て、全校児童に配ったり、自分たちで味わったりする。 4) 残りの冷凍保存したぶどうの加工の仕方を調べ、調理し、試食をする。 5) 見学等で分かったことをパワーポイントにまとめたり、学習発表会で発表したりする。 6) 1年間の学習を振り返り、学習したことをグループごとにまとめる。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の食や農業・酪農、それに携わる人と関わる際に、「なぜ寺領なのか」という視点を持たせることで、寺領だからこその理由や良さに気付けるようにする。 ・ぶどう栽培の意欲を高め、おいしいぶどうを全校のみんなに食べもらいたいという貢献意欲に繋げるため、地域の方から栽培方法を教わったり、収穫後の計画を話し合ったりする。 ・その場所に行って「ひと」「もの」「こと」に触れるだけでなく、自分たちでも寺領の食材を使って調理したり、試食したり、さらに調べたりすることで、寺領の食に関わる様々な人の想いを実感的に捉え、また、児童の興味・関心を高めることができるようにする。 ・「寺領っ子発表会」などで、多くの人に知らせ、子どもたちがふるさとへの愛着や誇りを高めることができるようにする。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入部分で「ひと・もの・こと」を体験や資料などで活用することで、児童がそれぞれの解決したい疑問をもつことに繋げ、その後の見学や活動において疑問を解決しようとする探究的な学びの力を高める。 ・ぶどうの栽培活動において、地域の方から教わったことやぶどう園見学で知ったことを、自分たちが育てるぶどうをどのように世話をするか話し合うための視点として活用することで、視点を明確にして話し合う力を高める。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>			

※取組の様子がわかるような画像を数枚貼り付け、ファイルのデータサイズが500kb以下となるようにしてください。
 ※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

寺領についての興味の高まりや、誇るべき食があることを認識した様子が見られた。「寺領にはすてきなものがある」という意識をもって活動することができた。そうした意識が、意欲的に発表会で伝える様子にも表れていた。また、地域の生産者さんへの尊敬の気持ちも表れていた。



（学力育成の視点から）

ぶどうの種類や育て方、ぶどうがかかる病気、寺領で育てている牛の特徴、牛乳のおいしさのひみつなど、自分で疑問に思ったことについて課題意識をもって学ぶことができた。ぶどうの育て方や、収穫した後にどうするかなど、児童が調べたり話し合ったりして学習を進めることができた。学習全体を通して「寺領の食」について学んだことを今後の学習に役立てようという意欲をもった。

4 課題や今後の展望

豊かな地域資源を活用する際に、児童の実態に合わせながら、児童の願いを大切にして、学習資源の精選や学習材の多面的な見方ができる学習展開を模索していきたい。